

## 日本地質アトラス第2版に寄せて

岡田博有<sup>1)</sup>

このたび工業技術院地質調査所の総力を結集した「日本地質アトラス第2版」が出版されたことに心から祝意を表するものである。

先に、地質調査所が創立100周年を記念して出版した「日本地質アトラス」(1982)が、その後10年間の研究成果と進展著しい地球科学諸分野の最新の資料を基に、全面的な改訂が加えられ、新版となって生まれ変わった。しかも、この上梓が第29回万国地質学会議(IGC)の記念出版物の役割を果たしたことで編纂関係者の喜びも一入と思う。

広域地質図が1815年英国の William Smith によって“England and Wales”地域図として出版されて以来、各国々が国力を挙げて一種の国勢図としてその国の広域地質図を出してきた。わが国の地質調査所が創設以来僅か100年余りにして、このような地球科学諸分野の精度の高い各種資料を収録したアトラスが編纂されたことは世界に誇れる成果と言える。

次に本アトラスの内容について若干の感想を述べたいと思う。

- (1) まず、全体の構成であるが、旧版がA2版(30×42.5 cm)であるのに対し、第2版はA全版(59.4×84.1 cm)と大版になっている。旧版はハンディで、手軽に持ち運びができたが、これは大きい分30万分の1ないし50万分の1の縮尺で日本列島全体の各種情報が一目で分かり、便利である。
- (2) 全部で17種類の各図の内容のうち、日本と隣接地域地勢図・地質図(50万分の1)、地質構造図、地震図、地質災害図、関東地方地球化学、などが新しく加わった。

特に、これまで日本列島地質図では是非欲しいと思っていた隣接地域を含めた広域地質図が初めて加わったことは、地域相互の地質的關係を理解するうえで極めて重要であり、高く評価されよう。しかも、これは概略の海底地質をも示したユニークなもので

ある。

ただ、惜しまれる点は、サハリン、台湾のそれぞれ北、南半分が外れたことである。

本アトラスの目玉である100万分の1地質図は、1982年版に比べ格段に精度が増した。例えば、九州地方を見ると、従来、古生層扱いの地質系統が殆どジュラ系に修正されたこと、四万十果層群がこれまでの2区分から4区分されたこと、堆積岩に海成・非海成が識別され、さらに付加コンプレックスの解釈も導入されるなど、地層の扱いに大きい前進が見られる。一方、地質図が見にくくなった点もある。それは、完新統の着色が海域と区別しにくいことである。

(3) その他、興味深い図として、燃料資源図に堆積物層厚図が加わったこと、地磁気異常図がより広域をカバーし、しかも見やすい彩色が印象的である。地球化学図も新しい試みである。

また、従来のこの種の地図と違って、各図の編纂者の個性がかなり強く出されていることも注目されよう。

とまれ、その他のすべての図に飛躍的な情報量の増加がみられ、利用価値は一段と高まった。これらの図を眺めるだけでも想像力を豊かにしてくれ、楽しめることは間違いない。

最後に、欲を言えば、日本列島周辺の海底地質図も加えて欲しい。1982年版のアトラスにはかなり充実した海底地質図が付いていた。近年これらの情報もかなり充実したに違いないから。

以上、要するに、本アトラスは地質調査所の大きい貢献であるだけでなく、日本の地質学界が世界に示した高い力量の結実でもある。国際的に本書は注目され、活用されよう。

OKADA Hakuyu (1993): Publication of the Geological Atlas of Japan (2nd Edition).

〈受付: 1992年11月30日〉

[購入] 定価51,500円(本体50,000円)  
朝倉書店(Tel. 03-3260-0141)へ。

キーワード: 広域地質図, William Smith

1) 日本地質学会副会長, 九州大学理学部地球惑星科学科:  
〒812 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1